

NEWSLETTER

No.55

20 May 2013

・教員の研究室と電話番号・メールアドレス	・	1
・2013年度教員在室時間表	・	2
・2012年度国土館大学地理学会巡検報告	・	3
・大学院生紹介	・	4

【教員の研究室と電話番号・メールアドレス】

※地理・環境専攻専任教員は全員世田谷キャンパス(世田谷・梅ヶ丘校舎)にいます

	研究室の場所	研究室電話番号	電子メールアドレス
野口	世田谷校舎 10号館 2F1004 研究室	03-5481-3246	noguchi@kokushikan.ac.jp
長谷川	2013年度は在外派遣のため大学にいません		hasegawa@kokushikan.ac.jp
岡島	世田谷校舎 10号館 2F1002 研究室	03-5481-3245	okajima@kokushikan.ac.jp
宮地	世田谷校舎 10号館 2F1001 研究室	03-5481-5278	tmiyachi@kokushikan.ac.jp
内田	世田谷校舎 10号館 4F1025 研究室	03-5481-5291	uchida@kokushikan.ac.jp
磯谷	梅ヶ丘校舎 34号館 8F 824 研究室	03-5451-8154	isogai@kokushikan.ac.jp
加藤	梅ヶ丘校舎 34号館 9F 904 研究室	03-5451-8164	k2kato@kokushikan.ac.jp

※教員が大学に在学予定の時間等は、次ページの教員在室時間表を参照してください。オフィスアワーは、基本的に先生が研究室にて、学生の質問等に答える時間です。

※オフィスアワー以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば、大抵の先生は急用がない限りは応えてくれます。ただし、基本的には相談や面接等は、事前にアポイントメント (Appointment ; アポ) をとってからするようにしてください。オフィスアワーであっても、出張等で不在の場合や、他の相談者などがいるため時間が割けない場合もありますので、事前にアポを取る方がお互いに好都合です。大学生としての自覚をもった行動を心掛けましょう。

※したがって、教員の自宅、特に非常勤講師の先生宅への電話は、先生からの指示がない限りは控えてください。

※メールを活用しましょう。多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です。ただし、教員のメールアドレスは携帯電話のものではありませんので、すぐ返信がくるとは限りません。余裕をもった連絡を心掛けてください。アポの際には、メールの標題に、学籍番号・氏名を明記してください。先生によっては、標題に番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります (迷惑メール・ウィルスメール対策のため)。用件が必ずしも標題になくても大丈夫です。「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意してください。

【2013年度 教員在室時間表】

凡例

講義中
 オフィスアワー
 在室の場合が多い

※春のみ：春期のみ講義。 ※秋のみ：秋期のみ講義。

※金曜日は文学部関係の会議が集中する日です。会議のある先生は大学にいますが、ほとんど会えない場合もありますので、注意してください。第3または第4金曜日には**教室会議**（12：00～）・**教授会**（13：30～）があり、教員全員が会議に出るので、その日の午後はほぼ会うことができません。教授会の日程は年間予定表を参照してください。

曜日	時限	1	2	3	4	5	6
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	12:55～14:25	14:40～16:10	16:25～17:55	18:10～19:40
月	岡島			秋のみ			
	磯谷						
	加藤		秋のみ				
	宮地			春のみ			
火	野口				春のみ		
	内田	春のみ			秋のみ		
	岡島						
	磯谷		町田校舎				
	加藤					春のみ	
	宮地				春のみ		
水	岡島						
	磯谷						
	加藤						
	宮地						
木	野口						
	内田	春のみ			秋のみ		
	磯谷						
	加藤						
金	野口	秋のみ					
	内田						
	岡島						
	磯谷	秋のみ					
	加藤						
	宮地						
土	内田						
	岡島						

国士舘大学地理学会冬季巡検（東京下町巡検）報告

国士舘大学地理学会 行事担当：助野庄太郎

2013年1月29日に長谷川均先生の引率の下、東京下町巡検が行われました。参加者は12名でした。寒さは厳しかったですが、1月の冬晴れのもと、巡検が行われました。今回の巡検は、事前に何度かの打ち合わせを重ねた上で実施されました。学会役員（行事担当）から、引率をお願いした長谷川先生にいくつかのコースの案を出して検討していただいた結果、「東京の台地の成り立ちや変化」や「低地における下町文化」をテーマとして巡ることになりました。

当日は、まず地下鉄丸の内線の後楽園駅に集合した後、文京シビックセンターへ移動してから、巡検先の地形や景観を確認しました（写真1）。その後、シビックセンターから御茶ノ水駅の方へ歩きました。御茶ノ水駅の北側にある



写真1. 文京区シビックセンターから東京東部を眺める



写真2. 聖橋から見た JR 中央線・総武線と外堀

聖橋からは、地上を走る丸の内線のみることができます。丸の内線は、台地の地下を走っていますが、御茶ノ水の駅の付近で神田川の谷にでて地上を走ります。ここで長谷川先生から、東京の地形の特徴について説明を受けました（写真3）。その後、一行は東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅から移動し、清澄白河駅を経由して両国まで徒歩で移動しました。この間、清澄通りに電柱がなかったことが印象的でした。清澄通りは、電柱を地中に埋めることで、下町の風情ある景観を保持していました。両国では、江戸東京博物館に入り、下町文化を中心に学びを深めました。そこから、この巡検のハイライト・水上バスで、両国→浅草→月島へと移動しました（写真4）。



写真3. 御茶ノ水駅近くで東京の地形の説明を受ける



写真4. 水上バスでの集合写真

水上バスからも、様々な景観を観察しました。首都高、オフィスビル群、東京スカイツリー、などを観察しました。高層ビルが立ち並ぶ中、佃島は昔ながらの下町の風情が残されていました。佃は、大阪市東淀川区の佃が由来だそうです。大阪に住吉さんがいるように、佃にも住吉神社がありました。ちなみに佃煮は、この佃島が発祥の地であり、この地域が漁業とその加工業で栄えた地域であることがわかります。その後、月島駅で無事に巡検は解散となりました。

今回の東京下町巡検は、参加者が多かったのも良かったと思います。また、日頃とは異なる視点から各所の景観を観察できたことも勉強になりました。長谷川先生には、巡検を引率していただきありがとうございました。

大学院生紹介

M1 志村 衛



修士課程1年の志村衛です。私は千葉県の幕張の出身です。みなさんは、「幕張」と聞いて、どのようなイメージをもつでしょうか？幕張メッセ・千葉ロッテマリーンズとマリスタジアム（現QVCマリニワールド）・オフィス街…。大体はこんな感じではないでしょうか。しかし私が住んでいる幕張は、こうしたイメージの街とは異なり、もともと半農半漁と製造業（農業と漁業、食品加工業が中心）の街なのです。私がイメージする幕張は、埋立地、砂州、泥炭地、海食崖、谷津田、ニンジン畑などなのです。私は、地域の性格を知るところに、地理学を学ぶ楽しさがあると思います。私はその魅力にとりつかれ、とうとう大学院

まで来てしまいました。

私は、農業および農村問題に関心をもっています。学部生時代は宮地ゼミに所属し、卒業論文では野菜（キャベツ）産地の存続がどのような要素と要因が関係しているのか、千葉県銚子市を事例に取り組みました。したがって研究分野は、経済地理学の中でも農業地理学ということになります。大学院では、加藤ゼミに所属しています。

さて私の研究テーマの着眼点はどこにあるのでしょうか。ここからは少し固い話で、日本農業の変化とともに、それをみていきたいと思います。日本の農業は高度経済成長期以降、ドラスティックな変化を遂げています。1960年代には稲作を中心とした農業機械の普及や、政策的誘導による野菜・果樹・畜産部門の産地形成が進みました。1980年代の半ば以降になると、円高基調のもとで安価な輸入農産物が増加したことや、日本の総合商社主導のもとで開発輸入が増加したことなどによって、国内外の産地間競争が激化してきました。他方で日本農業を担う農家数の変化に目を向けると、1960年以降一貫して減少し、担い手の再生産が困難な状況にあります。こうした中で、国内の農産物産地は、産地の存続方法を模索しています。この点に私は関心をもっています。農産物の産地維持という視点は、日本農業の存続の一端を検討することにもつながるのではないかと考えています。

大学4年間は、長いようでとても短いです。私が所属する修士課程の2年間も、相当短いものだと思います。一日一日を無駄にせず、何事にも問題意識をもち、一つ一つの課題を乗り越えていきたいと考えています。皆さんも、短い大学生活を有意義に過ごせるように、頑張ってくださいね。では。

M1 服部 有沙



修士課程1年の服部有沙です。昨年まで宮地先生のゼミに在籍しており、ゼミでは福島県二本松市にある西谷集落や群馬県の川場村での活動（震災復興支援、特産品開発のお手伝い）、学園祭などに参加し、貴重な経験を積むことができました。ちなみに、地理学野外実習Bは内田先生の実習に参加しました。現在は、加藤先生のご指導のもと、医療地理学を学んでいます。研究内容は、卒業論文でも取り扱った「医療サービスの地域格差」というテーマについて、より深く追究していきたいと考えています。

私は、東京都立深川高校出身で、外国語コースという英語に重点を置いているコースに在籍していました。志望理由は、制服が可愛かったことと、留学制度があったことで、実際にオーストラリアにホームステイに行きました。大学で何を勉強したいかを考えた時に、もともと旅行に行くことが好きだったこともあります。オーストラリアでのホームステイの経験を通してもっと日本や世界のことを知りたいという気持ちが強くなり、地理・環境専攻に進学しました。

大学に入学してからは、地理学野外実習A、B、Cを通して、より地理学に興味が湧きました。特に、地理学野外実習Cでおこなった聞き取り調査の内容は、とても興味深いお話でした。この聞き取り調査の経験を基に卒業論文のテーマを考え、先生にアドバイスをいただいて「医療サービスの地域格差」というテーマにたどり着きました。現在は、修士論文の執筆に向けて、研究に励んでいます。

先ほども述べましたが、私は旅行に行くことが好きです。大学生になり、旅行に行く時間がたくさん取れるようになりました。最近では、歴史的な名所によく足を運んでいます。特に、旧家や寺社、城が好きで、最低限の着替えとデジカメを持って出かけます。お金がないので、移動手段は夜行バス、宿はビジネスホテルです。いつかは旅館に連泊しながら、観光を楽しみたいと思っています。また、船やフェリーに乗ることも好きです。こちらはあまり乗る機会がないのですが、いつか長期間の船旅に出てみたいです。

今年は、加藤ゼミの3年生の授業にも参加しています。ぜひ気軽に話しかけて下さい。どうぞよろしくお祈りします。